

インドネシア

きれいな水は笑顔と健康の源

— Air Bersih untuk Senyum dan Kesehatan —

アイール ベルシィ ウントウック セニューム ダン ケセハタン

PHJはインドネシアジャワ島西部のバンタン州セラン県で、2004年3月から日本NGO無償資金協力事業としてスタートした「地域保健医療強化事業」を実施しています。

この事業は、現地保健行政と協力して地域医療サービスを改善・向上し、母子健康教育によってお母さんの健

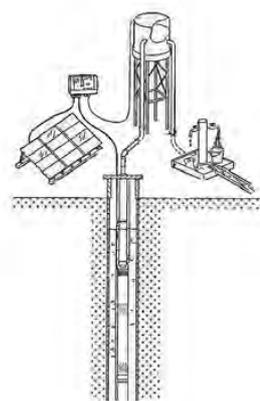


地域保健強化事業で実施している事業の一つ栄養不良幼児への栄養補給食配給

康と乳幼児の栄養状態を改善して、高い妊産婦・乳幼児の死亡率と栄養不良児を低減することが目的です。

活動を通して成果は着実に上がっていますが、苦勞して得た事業の成功と成果を持続させるためには「きれいな水・安心な水」を確保することが欠かせないことも明らかになりました。

地球は水の惑星といわれていますが、世界人口の6分の1約10億人以上は安全な飲み水を手にしていません。幼い子どもの主な死因である下痢は、安全でない水と衛生施設によって引き起こされ、1日に約4,000人の幼い子供が死亡しています。(詳細は次頁)



シンプルな構成のソーラー井戸ポンプシステム

巻頭言 / 健康づくりから世界をめざして



ピープルズ・ホープ・ジャパン
理事

後藤 幸子

人は皆、健康で長生きしたいと思うもの・・・武蔵野市では、国の「健康日本21(第三次国民健康づくり運動)」に則って、メタボリックシンドロームを中心とする生活習慣病予防のため、また市民の健康増進のために「健康づくり支援センター」が設立されました。そこで今、私は健康づくり推進委員として活動しています。

活動をしながらいつも思うこと・・・それはピープルズ・ホープ・ジャパンの心のこもった活動と功績です。その上私たちのささやかな支援金でも下記のように大切に役立て、明確に報告いただき、その誠実さにも喜びを感じています。(他団体の明確な使途報告は見たことはありません。)

私もピープルズ・ホープ・ジャパンのHOPEパートナー(患者里親制度)となって10年近くになりますが、理事会

でタイにおける患者支援や、AIDS予防教育、インドネシアにおける口腔衛生教育、カンボジアにおける母子保健教育などの活動報告や新しいプログラムが若い女性のスタッフ達からそれぞれに発表されます。内容はどれも健康を願う真心こめたプログラムと逞しい行動力です。その活躍ぶりにいつも頭の下がる思いがします。

最近の活動で心に強く残ったこと・・・それは生まれつきの心臓障害をもって生まれたイラクの幼児サジャトちゃん(男児5歳)アリアちゃん(女児2歳)への医療支援です。

二児は大阪の国立循環器病センターで手術成功、3カ月の入院生活の後帰国されたそうですが、入出国の困難な混乱下にあるイラクからどのようにして日本に連れて来られたのか、ピープルズ・ホープ・ジャパンの方の、並々ならぬ努力を感じました。

地域で一人でも多くの人が健康で楽しく生活ができる様微力を注いでいる私ですが、この思いを世界に向けて実現してくれる立派な機関がピープルズ・ホープ・ジャパンと幸せに思い、小さな力でももっともっと協力しなければと考えています。ピープルズ・ホープ・ジャパンの発展を心から祈念しています。



飲用水となる河川(水汲み・食材洗い・洗髪)

また村人の生活では、人々の飲用水の主水源である河川・水路や灌漑池は、トイレ・浴場・洗濯場としても使用され、感染症などの懸念も絶えません。雨水の貯水や浅井戸も使われてはいますが、海に近い影響もあり塩分濃度が非常に高く、火山性の細かい土壌粒子の含有量も多く、長期飲用による健康被害の可能性も見受けられます。地域社会も「安全な



早速貰い水にきました

事業実施地の水事情も同様に深刻で、地域医療の中心となるべき診療所でさえも「医療に必要な最低量の安全な水」確保が困難で市販のミネラル水を使う場合もあります。

水確保」の必要性を真剣に受け止めてはいますが、残念ながら、セラン県として農村部の上水道整備計画は未だありません。

PHJは、「地域保健医療強化事業」は「水問題の改善なくして成功なし」と考え、まず

チャレナン診療所の医療用水確保を水問題改善モデルケースとして行政と調整しました。

水質・地質に適合した信頼性の高い資機材の選択と自然エネルギー利用(診療所の電力余裕がない)による低い維持・管理費を選定基準として、インドネシア国内で稼働しているさまざまな浄水システムを検討した結果、水源としては河川などの表層水利用をあきらめ、ソーラーパネルと電動ポンプによる深井戸(約90m)が最も費用対効果が高いと判断して、事業に着手しました。

2007年10月ソーラーパネルとポンプを発注、2008年1月上旬掘削開始、1月下旬には待望の水が出ました!

配管と環境整備を行い、水質検査で安全を確認後、井戸利用管理者に管理・衛生教育を行って運用を開始しました。

診療所では、夜間の出産介助時に安全な水が確保出来たので非常にありがたいとの感謝の言葉が出ています。また地域住民もきらきら光るきれいな水を手にし、笑顔がこぼれています。安全な井戸は、今現在わずか1本、地域で必要とする水量として十分ではありませんが、健康を求める人々への皆さまからの素晴らしいご支援になることを確信しています。特別ご寄付を頂いた方々にもあつくお礼申し上げます。

(伊藤 美夏・小林 邦孝)



待望の出水!

タイ出張報告

タイ、チェンマイ地区で実施中の、四つのプログラムの状況把握を行うため、ゴールデンウィーク後半に関連施設を視察してきましたので報告します。

HIV/AIDS 感染予防教育(チェンマイ大学・パヤップ大学)

活動拠点となっている、チェンマイ大学とパヤップ大学の教授およびマスタートレーナーとの意見交換を通じ、いかに、地道なHIV/AIDS教育が重要であるかを再認識してきました。



パヤップ大学では、日本からの留学生2名を含めて、写真を撮りましたが、数日後にはPHJの訪問を写真入で、両大学のウェブサイトに掲載されました。それだけ関心度が高いのです。

子宮頸がん予防教育

各地区の健康センターでは、VHV(ビレッジ・ヘルス・ボランティア)に対する教育が、システム化された内容で、しかも教える側、教わる側、お互いに楽しい雰囲気で進行しています。

この6ヶ月間で、40名の看護師および、285名(114村)のVHVの教育が終了しました。

HOPE パートナープログラム

サンサイ病院で、お母さん、お父さん達の参加を得て、患者自身がトレーナーになるための、ジュニア・ヘルス・ボランティアの教育がおこなわれていました。

手作りの教育資料もトレーニングの進め方もしっかりとしたので、安心しました。

小児先天性心臓手術支援

マハラジャ病院訪問時、前の週に手術を終えた、二組の家族に会えました。お父さんお母さん、ともに言葉は通じなくとも、「感謝また感謝」でした。



写真左端の、レクワン先生は、「まだ、300名以上の子どもたちの名前がウェイティング・リストにあり、手術を待っているのですよ!」とっていました。

(蓮見 雅彦・須見 彰)

カンボジア活動報告 新規事業地での助産師教育

カンボジア事務所では、保健センターの母子保健サービスを改善し、地域の人々が健康になるために活動を行っています。新規事業地では、今年の1月から活動を始めました。

まず第一歩として、地域の保健の核となる保健センターの助産師がきちんとした知識を身につけ、サービスを提供できるようにしなければなりません。そこで、助産師を対象とした第一回トレーニングを行いました。テーマは「妊婦健診」です。4ヶ所の保健センターの10名の助産師が参加しました。

妊婦健診では、妊婦のための健診カードがあります。助産師が、妊婦の血圧や体重の変化、胎児の心音の

チェック等、全項目をきちんと記入して、健診カードが活用できるように指導しました。また、妊婦に対して、栄養指導、お産の準備と妊娠中の危険信号(難産の徴候)などを教育できるように練習しました。最終日には、実際に妊婦さんに来てもらい、健診を行い、妊婦さんのための保健教育を行いました。



妊婦に対して保健教育を行う実習風景

参加した助産師たちは、保健センターでの日常業務に非常に役に立つ、と喜んでいました。閉会式では、保健行政区のチーフから「PHJに支援を受けている保健センターは非常に幸運だ。この機会にいろいろ学んで、地域の人のために保健サービスを向上してほしい」との言葉がありました。この言葉をありがたく受け止め、これからも保健行政区や保健センターの職員と共に活動しながら、地域の保健がよくなるように努力していきます。助産師対象のトレーニングは随時開催する予定です。

(これまで診療所と呼んでいたところを、保健センターに変更しました) (中田 好美)



トレーニングに参加した助産師、保健行政区職員、PHJスタッフ

カンボジア事業報告会開催

去る5月23日金曜日夜7時から、東京広尾JICA地球ひろばで、一般の方を対象にPHJカンボジアの事業報告会を実施し、大学生や看護師等を中心に30余名の方々にご参加いただきました。



報告会では、一時帰国した現地代表中田好美が、カンボジアコンポントム州で2003年～2007年まで実施した「母子保健改善プログラム」の活動内容を説明するとともに、この事業でのモニタリング評価活動を通し、カンボジア事務所としてのプロジェクト運営力向上に取り組

んできたことを紹介させていただきました。特にプロジェクトマネジメント向上の取り組みでは、組織作り(チームビルディング)が欠かせないことを、中田が現地での試行錯誤を例に説明させていただきました。

参加者からは、「現場を体験している方の話だったので、とても具体的で聞きやすかった。現地ならではの苦労した点、良かった点を聞くことができよかった」(学生)、「プロジェクトや組織運営に関する率直な報告で、事業実施に非常に参考になり有難いです。改めて評価の重要性を再確認しました」(NGOスタッフ)等のコメントを頂きました。報告会で参加者から頂くコメントは、現場で働く上で励みになります。ご参加下さった皆さん、有難うございました。(石関 正浩)

PHJは、企業、学校、団体様を訪問し、活動説明会・報告会を実施しております。ご関心のある方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

担当：石関 正浩、別所 信子

TEL：0422-52-5507 E-mail：info@ph-japan.org

会員のひろば

インドネシア子供絵画コンクール

大河内 八重子（個人会員）

機会があり、会員の大河内さんがインドネシアの子供絵画コンクール(主催:PHJ及び第一ウブド診療所)を見学され、その時の雰囲気伝えて下さいました。

4月11日、第三回子供絵画コンクール開催のバリ州ウブド市は快晴。集会所に集まった参加100人程の子供達の顔は今日の空よりもいっそう晴れ晴れと輝いていました。ホープ・インドネシア事務所が口腔保健教育事業を支援している小学校の子供達です。各校の制服姿も凛々しく、女の子は日本では見かけなくなった三つ編みのお下げ。それぞれお気に入りの道具を抱え、開始の合図を今か今かと待っています。

規定の画用紙が配られ、裏に名前とゼッケン番号を忘れないでと注意を受け、サアこれから二時間半で描き上げます。

ザワザワしていた子供達は合図とともに物音一つ立ってなくなり、空気がぴんと張り詰めます。床にじかにかがんで描く子、小さな折り畳み机を広げて描く



子、モチーフがおかれているわけではなく、其々心に浮かんだものを描いていました。何事?と通りかかった観光客が覗いても、子供

達は絵に集中。暑さで柔らかくなったクレヨンで指を汚しながら自分の世界に没頭。

ヒンズー教の神話や祭り、伝説を描く子が多い。学校でインドネシアの伝説を学ぶそうです(三保の松原の天女と同じ話もあります)。何だか感動的です。今の日本にはなくなったテーマです。弟や妹のできる年齢らしく、赤ちゃん誕生で喜ぶ家族の様子を描いたものも多くありました(ホープ特別賞受賞)。2時間もするとそろそろ描きあがった子が他の子の作品覗いたり、友達同士ふざけたり。子供のエネルギーは何処の国でも変わりません。先生のご注意に首をすくめる男の子達。一切無視して最後の追い込みをかける子。そしてタイムアウト。絵が集められ先生方の出番です。どの絵も一生懸命な気持ちが伝わってくるので順位をつけるのは忍びがたく、先生方は苦勞です。黄金色のトロフィーは誰の手に渡されるのでしょうか。線のくっきりした鮮やかな力強い作品ばかりでした。

気になって覗きにくる子供達の対応に苦勞する伊藤美夏所長・・・でも何だかじゃれ合って楽しんでいるみたい。トロフィーを貰った子の誇らしげな顔。参加者全員には歯ブラシが配られました。それを振り回してチャンバラ?する子も。こんなすばらしい作品を書く小さな画家もやっぱり小学生です。子供達から元気を貰った一日でした。

(事務局注) この中からもホープ特製カレンダーの絵が採用されます。お楽しみに。

PHJスタッフ退職と新任のご挨拶

私はホープ立ち上げの時から11年4ヶ月の間、会計の仕事をして頂きました。発展途上国に支援をしたいという思いは誰もが持っている事ですが、やはり経済的な基盤が無いと実現出来ません。ピープルズ・ホープでは個人会員と法人会員の皆様方が大変積極的に、又、永続的に支援をして下さっております。私はこの様な基盤のしっかりした団体で仕事をさせて頂きましたことを、誇りに思い、会員の皆様方に深く感謝を申し上げたいと思います。(柴田 弘子)

皆様のご協力によりまして、PHJの募金、広報の担当として3年間働くことが出来ました。

入会、また紹介いただきました皆様に、心より厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

PHJは途上国の人々に教育を基本とし、着実に自立化支援を行っています。

私はこのすばらしいPHJを今後も支援したいと思います。皆様も継続して、ご支援をお願い致します。(三木 巖)

4月よりPHJのスタッフに加わりました。同じ地球上でも健康・医療環境に恵まれていない地域、人々が居るといのが現実の姿です。これらの地域の特に次代を担う子供や母親向けを中心に健康・医療環境の向上に向けて自立化支援につ

いてPHJを通して微力を尽くしたいと考えています。PHJの活動は草の根活動で皆様方からの物心両面のご支援が不可欠です。どうぞご支援をよろしくお願い致します。

(阿賀 敏夫)

5月からスタッフに加わりました立川です。

ピープルズ・ホープ・ジャパンが活動の基本としている医療支援の活動については初めての経験となりますが、支援して下さる団体、個人会員の皆様のお気持ちに添えるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。(立川 三和子)

